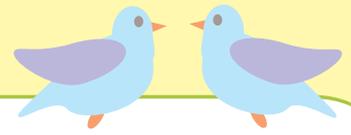




市民公開シンポジウム



対話学・対話カフェの重要性

趣旨

「がん対策推進基本計画」の全体目標の中に、「がん患者の多くは、がん性疼痛や、治療に伴う副作用・合併症等の身体的苦痛だけでなく、がんと診断された時から不安や抑うつ等の精神心理的苦痛を抱えている。また、その家族も、がん患者と同様に様々な苦痛を抱えている。がん医療や支援の更なる充実等により、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」を実現することを目標とする。」とある。「医療者が情報提供のみを行い、患者の自己決定を促す」ことが「患者を尊重すること」ではないことにも、国民は気が付き始めている。「古き歴史と日新の科学」を踏まえて、次世代の新しい精神性として改めて問い直す時代到来である。人間の尊厳に徹した医学・医療の在り方を考え、「潜在的な需要の発掘」と「問題の設定」を提示し、「新鮮なインパクト」を与えることが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の使命であろう。

その観点から、市民公開シンポ「対話学・対話カフェ」を企画することにした。

開会の挨拶	順天堂大学 学長 木南 英紀
挨拶	文部科学省高等教育局医学教育課長 村田 善則
講演	「がん医療に、期待するもの、求められるもの」 「がん患者の精神的、社会的な痛み軽減に向けて」 NPO法人グループ・ネクサス 理事長 天野 慎介 「サイバーが見た、がん治療の“その先”」 TBSテレビ報道局 解説委員 小嶋 修一
座長	順天堂大学 病理・腫瘍学講座 教授 樋野 興夫
休憩	
パネルディスカッション	「原則を身につけた研究者・医療人の育成」 「医療崩壊に大学から立ち向かう：一乳癌専門医からの提案」 順天堂大学 乳腺・内分泌外科学研究室 教授 齊藤 光江 「がん患者への更なる貢献—研究者とのコラボで薬剤師の専門性を追及—」 東京理科大学 薬学部 医療安全学研究室 教授 小茂田 昌代 「臨床研究から生まれる患者中心の医療：協調と連携」 岩手医科大学 産婦人科学講座 教授 杉山 徹 「地域に求められる患者中心のがん医療と外来力(りき)」 島根大学 内科学講座(呼吸器・臨床腫瘍学) 教授 磯部 威
パネリスト	
座長	順天堂大学 呼吸器内科学講座 教授 高橋 和久
閉会の挨拶	順天堂大学大学院 医学研究科長 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業推進責任者 新井 一

日時

2013年 **3月11日**(月) **13:00~15:30**

場所

順天堂大学 本郷キャンパス

10号館1階105カンファレンスルーム

JR線、地下鉄丸ノ内線「御茶ノ水」駅下車 徒歩約5分

